

第2回美唄市恵風園・恵祥園建替え等基本構想策定市民検討委員会議事要旨

と き 令和6年8月28日(水) 午後6時00分～午後7時57分

ところ 美唄市役所2階 市長会議室

○出席者 委員5名(全委員5名)

市：保健福祉部長、保健福祉部理事、恵風園・恵祥園園長、
恵風園・恵祥園総務係長、恵祥園総務係主査、恵風園・恵祥園生活支援係長、
恵風園・恵祥園生活支援係主査
業務委託者：株式会社ドーコン2名

1. 開会

2. 報告事項

【事務局より、第1回市民検討委員会の議事録について報告】

3. 議題

(1)上位計画などの整理について、(2)現施設の課題について、(3)近年の同種施設の事例・視察の候補について

委員長：議題の前段部分の説明について、説明願いたい。

【(株)ドーコンより、資料に基づき説明】

委員長：確認点等があればお願いしたい。

委員：第7期美唄市総合計画にて、「連携」に関する記載がある。現状の取り組みにおいては、連携が図られていない部分も見受けられると思われるが如何か。効率的に実施できる部分もあると思われる。

事務局：各事業においては、必要な連携を進めながら実施しているところであるが、必ずしも十分ではない面もあると思われる。この議論もきっかけとしながら、限られた予算や人的資源の中で、連携に配慮してより効率的な事業展開を図っていきたい。

委員：職員確保や施設の黒字化に向けた取り組みの考えがあればお聞きしたい。また、人員不足解消のための外国人の採用というのは可能なものか。

事務局：スタッフ確保に向け、新聞のチラシ、介護学校への訪問等も実施しているが苦慮している状況である。

収益の改善に関しては、制度の動向を都度把握しながら可能な限り補助金・加算金の獲得に努力しているところだが困難な面がある。一方、スタッフの処遇改善に向けた人件費アップ、老朽化対応のための改修ほかの支出も多く、実態としてはなかなか好転でき

ていない。

外国人スタッフに関しては、あっせん事業者への費用、また、言葉・文化・生活習慣等のサポートなど、多方面での対応を考慮することが必要となる。当該事項は、介護分野のみならず建設ほか他の分野にも関連することであるため、継続的かつ広範な検討が必要な事項と考えられる。

委員：介護スタッフの定着に向け、職場でしっかりフォローしていく体制とともに、休憩所ほか働きやすさ向上のための機能も必要だろう。

委員：現在の施設では、老朽化が根本的な問題といえる。プライバシーが無いので入居者も減っている、また現在の建物における機能・導線では、円滑な介護が困難と考えられる。

委員：資料について、いくつか文言の精査が必要な部分が見られるので、事務局に検討願いたい。

(4) 検討委員会における論点について

委員長：次の議題について、説明願いたい。

【(株)ドーコンより、資料に基づき説明】

委員長：今までのご意見等に基づき、施設自体は存続という方向で議論を進めてよいか。

(各委員了解)

委員：現状を考慮すると、改修ではなく建替が望ましい。場所については別途議論が必要だろう。また、市立病院建替の検討の過程で、この施設をどうするかという議論はあったのか確認したい。

事務局：議論の途中段階においては、病院と福祉施設を一体的に整備（ワンストップ）といった議論はあったが、その後、このような話はなくなった。

委員長：改修は現実的ではない為、この委員会としては建替を行うことが必要ということで議論を進めてよいか。

(各委員了解)

委員：施設の将来入所者数を考える上で、高齢者保健福祉計画等で示されたものが一つの拠り所となると思われる。それらを踏まえ検討を進めていくことになるだろう。

委員：建物のイメージとしては、養護と特養の複合型とし、また、セーフティネットの観点から、公設公営が維持されるのが望ましいと考える。民間施設は個室中心であり、利用料を考えると入居できない方もいると思われる。入居者の状況にあわせた選択肢を提供することが重要だろう。

委員：定員の検討にあたっては、人材確保の面が大きな課題になってくる。他の施設では、外国人を活用しているところ、費用をかけて人材紹介会社を通しスタッフを確保しているところもある。

委員：公設の養護施設と特養施設は美唄市にあり続けてほしい。

委員：特養施設に関しては、介護保険での対応のため、民間も公共も費用・サービスは基本的に同様である。札幌などにある有料老人ホームの場合はちがうが。

事務局：多床室と個室で料金が異なる面がある、そのほか、電気代、管理費なども違いとして考えられる。

委員：これらの情報を整理する必要がある。

委員：養護施設については、費用は全て市町村の持ち出しである。それに対し地方交付税として戻ってくる状況ではあるが、利用控えに繋がる面もあるかと思われる。

委員：全部個室とはせずに、多床室と併用していくことが必要だろう。

委員：恵風園について、サービス付き高齢者向け住宅としていくことなどは考えられるのか。

委員：詳細については、今後の議論になるだろう。

委員：第7期美唄市総合計画において「誰ひとり置き去りにしない」との記載がある。この趣旨を考慮すると、高齢になっても美唄市にて住み続けられるために、恵風園・恵祥園をどのような施設としていくか、という視点が重要であると思う。入所者にとってもスタッフにとっても、魅力のある施設が重要。ホスピタリティのあるところが良いと思う。入所者が生き生きと生活することができ、自分の家であると思える施設が良い。

委員：人口減少が進み高齢者人口も減少していく中で、対象者は少なくなる可能性があるということ念頭に置く必要がある。

委員：立地場所については、関連施設間の連携がとれるように一定程度まとまったところにあることが望ましいと考える。また、職員の緊急対応時のことを考えると、不便のない位置にあることが必要かと思われる。また、災害時の福祉避難所としての利用も考えられる。

委員：養護施設と特養施設は対象者も違うことから、切り離して考える必要があるだろう。養護施設については、市の一般財源からの支出であるため経営上のことも踏まえながら、その

必要性について広域的な視野で考えていくことが必要。養護施設のニーズ把握は困難であるが、何らかの根拠はあるだろう。

委員：特養施設といっても、全ての方が寝たきりではないことに留意する。特養は「ついすみか」といえるが、一方では「住まい」としての役割も重要。来訪者に対して、急須でお茶が出せる、おもてなしができるといった施設像が望ましいのでは。あわせて、冷暖房がある、感染症対策が整っている、福祉避難所としての機能がある、そして、スタッフも働きやすい等が重要と考える。このような施設であれば、経営上も維持できるのではないか。

委員：場所について、地元の方のご意見は如何か。人材不足の状況、病院との連携や夜間対応ほかスタッフ対応の利便性等を考慮すると、関連する施設間の距離は大切かと思われる。

委員：地元の居住者としては、現在の地域での建替が望ましいと考えている。調理に関して地域の方が働いていたなど地域との結びつきがある。自然がありゴルフ場があるなど、環境も良い。

委員：地域の方が入所者の世話をしたり、一方では、入所者も地域コミュニティの一員となっていくなど、地域と交流というのは考えられるだろうか。

委員：可能だと思う。かつてはそのような交流があった。しかし、現在は高齢化等を背景に支援や交流が困難となっており、それぞれのサポートはヘルパーさんをお願いしている状況である。

委員：家族の通い易さという視点も重要だろう。高齢化が進む中で、自動車を運転しない方のアクセス面も考える必要があるだろう。

委員：場所に関しては、視察で見えてくるところもあるだろう。いろいろなパターンのメリット・デメリットを聞けるだろう。そこを参考にして議論を深めていけると思う。

委員：例えば、特養だけ別の場所とするなどの様々なパターンも考えられるか。

委員：スタッフ側にとっても、病院が近いということは心理的にも違うと思われる。

委員：施設の入所者にとって、病院が近いかどうかとうことはあまり問題ないかと思う。小学校が近くにあるとか、元気な方は買物をする場所があるということが重要と思われる。

委員：自然や医療ほか、これらの距離感のバランスが重要だろう。

委員：何かあった時には丁寧な対応をしていただけるというような、人が重要ということも忘れ

てはいけない。建物の良さのみならず、そこで生きているということが実感できるような場づくりが大切である。

(5) その他

事務局：ご意見の経緯については別紙のような形で取りまとめており、今後順次追加していく。

「まちづくり目安箱」の資料について、参考として配布した。

第3回の委員会の開催は、10月の中旬で調整する。

視察は委員会前に実施したい。詳細は別途連絡する。

4. 閉会